

## 早稲田大学 人間科学部 世界史 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	空欄補充は易しいが、正誤判定は問題数が多く時間不足になるおそれがある。1990年代をとりあつかった部分に難しいものが目立つ。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	1.アメリカ独立と合衆国の政治 2.アフリカ分割	空欄補充と事項の年代順をきく問題は選択肢の相違が明確で答えやすい。一方、正誤問題はひとつひとつの文が長く、四択といっても読み込むのには意外に国語力を要求される。	標準
II	1.中国現代史・古代の文字媒体 2.カシミール地方の歴史	1. の1996年当時の中国の最高指導者＝鄧小平はや細かい。最初に元号を使用したのは武帝だが、それがおもい当たらなくても5択のうち「西域都護」だけが武帝以後なので消去法で対処可能。2.のカシミール史は文末のパキスタン現代史が98年の核実験をとりあげる。核と平和といった時事問題に関心が薄い受験生には難しいかもしれない。	一部難
III	ヨーロッパ中世	正誤の決め手になる部分が見つかれば判定自体は容易。⑬のドミニコ修道会の成立地は、ドミニコがスペイン人で紛らわしそうにみえるが、13世紀成立の修道会はあとイタリアのフランチェスコ会しかなく、「南フランス」をキーワードとして正解にたどりつける。	標準
IV	1. インターナショナル 2. ソ連の解体・東欧革命	設問Xの空欄4は「ロシア」でも「ソヴィエト」でも文意は通りそうだが、ロシア革命は1917年の事件と考えて「ソヴィエト」を正解とした。Yの8のアンドロポフ・チェルネンコは前後に迷った受験生も多いはず。主要国のトップの名はしっかりおさえておきたい。	一部難

### 〔総合コメント〕

小問の総計が75問もあり、さらに文章正誤問題の各文に長いものが目立つ。判定の基準になるキーワードを要領よく発見できないと、同じ文を何度も読み返すことになり時間不足に陥る危険がある。余裕をもって問題に対処できるか否かは、読解力のあるなしにかかってこきそうだ。現代史(今年はソ連・中国・パキスタン)に細かい出題が目立つので、特別の対策が必要である。